26 良食味米：米の食味については，品種の違いや産地などに影響されるが，鹿児島県の普通期米地帯の中でも，一般的に昼夜の気温較差が大きい薩摩地区や伊佐地区などが良食味地帯である。また，米の食味評価の一つである玄米中のタンパク質含有率は，本県の普通期栽培の主要品種ヒノヒカリでは6.5%以下が目安となっている。

27 かごしまブランド：消費者や市場から高い評価を受けている鹿児島県を代表する農畜産物のこと。本県農産物のイメージアップと販路拡大を図るため，平成元年度から「かごしまブランド」確立運動を展開し，①品質の良いものを，②量をまとめて，③安定的に出荷できる，市場競争力のある産地づくりを進めている。この運動では消費者ニーズや激化する産地間競争の情勢に的確に対応するとともに，県内他産地のモデルとなるような優れた産地を「ブランド産地」として指定しており，平成３年５月には「ブランドマーク」を制定した。

28 認定農業者：農業経営基盤強化促進法に基づき，自ら作成する「農業経営改善経計画」（５年後の経営目標）を，市町村から認定された農業者。

29 ライフサイクルコスト：施設の建設費用とその施設の寿命が尽きるまでに要した修理費用及び廃棄に要する経費の合計額。

30 生産性の高い畜産経営：繁殖成績の向上や規模拡大によるコスト削減，飼養管理の徹底による安心・安全で高品質な畜産物を生産する経営。

31 粗飼料の自給率：家畜の餌として与える粗飼料のうち，生産者自らが作付・生産して得られる飼料作物や牧草，稲わらなどの割合のことで，購入粗飼料の量が増加すると自給率は下がる。

32 企業的経営感覚を持った経営体：技術や経営管理，マーケティングなどの能力を兼ね備えた経営者がいる農家。

33 ブロック・ローテーション：水田の集団転作の一手法で，転作を地域全体の課題として解決するため，地域の水田をいくつかのブロック（区画）に分けて，毎年，転作を実施するブロックを変えて，ブロックの数に応じた年数で一巡（ローテーション）する方式。

34 コントラクター：農家の労働力等を補うため，畜産農家等から，飼料作物の収穫作業等の農作業を請け負う組織。営農集団や農協のほか，民間企業等によるものがある。

２　林業の振興

将来のイメージ

■　伐期に達しつつある豊富なスギ・ヒノキ・広葉樹等森林資源の利用推進のため，生産性の向上とともに，木材加工施設の整備や，山から木材加工施設への丸太直送システムの定着など流通の合理化が図られ，木材を中国等への海外輸出をはじめ県内外へ安定的に供給できる県内有数の生産・流通拠点となっています。

■　豊富にあるヒノキ林が，間伐等を適切に実施され，また，林産物に被害を及ぼすシカが適切な密度に管理されて被害が軽減されるなど，「北薩ヒノキ」としてブランド化が進んでいます。

■　県内一を誇る竹林資源を有効に活用するため，放置竹林等の施業受委託体制が整備されるなどして，たけのこ・竹材等の生産振興や利用促進が図られ，さらに竹林の景観整備等を行い，観光資源としてグリーン・ツーリズム[※35]に活用されるなど地域特性を生かした「竹の里」づくりが行われています。

現状と課題

■　森林所有者の不在村化[※36]や高齢化，世代交代が進んでおり，自ら施業や経営を行うことができない所有者が増加していることから，森林組合を中心とする林業事業体の森林管理機能に期待せざるを得ません。

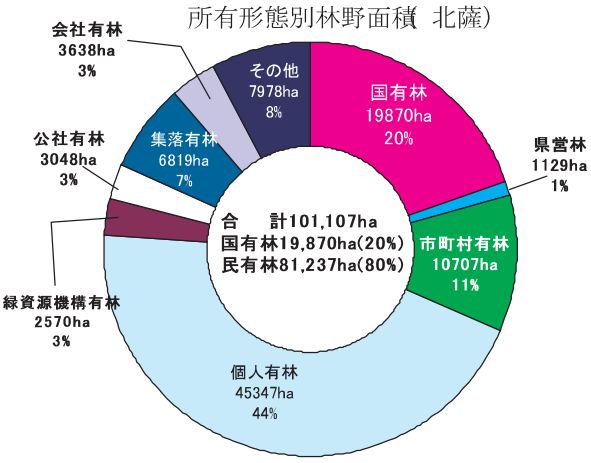
■　木材流通が固定化するなど，多方面からの需要増大への対応が求められています。今後，中国等海外の需要増大や国内の製紙・合板業界の外材から国産材への原材料転換の動き等に対応し，当地域の木材を安定的かつ定価格で流通できる戦略的なシステム作りが必要と考えられます。

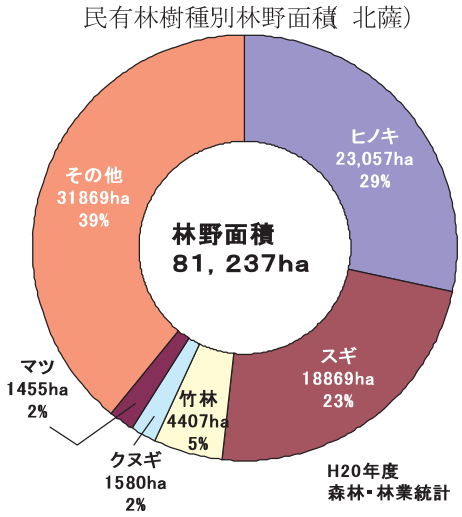
■　林産物に被害を及ぼすシカの生息密度が高く，木材利用の面から最も材積・価値のある部分の被害が甚大です。

■　当地域は，県内一の竹林面積を有しており，この豊富な竹林資源を生かし，古くからたけのこ・竹材の生産に取り組んでいます。

■　10月上旬から出荷される「早掘りたけのこ」は，東京などの中央市場で高い評価を得るなど，農林家の所得向上と農山村地域の活性化を図るうえで極めて有望な作目です。

■　地域の観光資源の一つにもなっている竹林は，生産者の高齢化や後継者不足などによる労働力の低下，台風被害等により，管理が行き届かないところが増加し，さらに生産量も減少しており，今後，森林の環境・景観保全への影響も懸念されています。





取組の方向性

（１）北薩材の安定供給体制づくり〈木材の生産・流通拠点づくり〉

■　森林所有者の不在村化や高齢化等の進行に対応して，平成20年に広域合併した北薩森林組合等が実施主体となる長期受委託制度の普及・定着に努め，間伐未実施林や放置林等の解消を図ります。

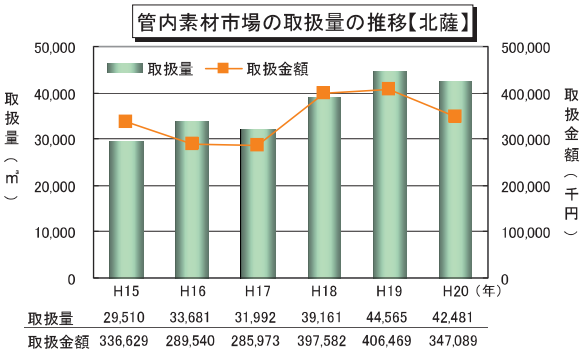
■　森林組合や木材業者等で構成するプロジェクトチームを設置し，県内外の集成材や合板工場等への直送システム等多様な木材需要に対応できるシステム作りを推進します。

■　丸太のストックヤード[※37]や適正な機械・計画的な路網等の整備により，県内有数の生産・流通拠点づくりを進めます。

■　「北薩ヒノキ」については，さらに間伐等適切な森林整備を進めるとともに，丸太等を需要者へ定時・定量に供給できる体制づくりを進め，ブランド化を推進します。

■　林産物に被害を及ぼすシカについては，狩猟者の育成やシカ駆除後の食肉としての利用推進等を通じた適正密度の管理を図ります。

高性能林業機械（プロセッサ）による間伐状況



資料：県林務水産部

（２）北薩地域の竹の里プラン〈たけのこ・竹材の生産振興〉

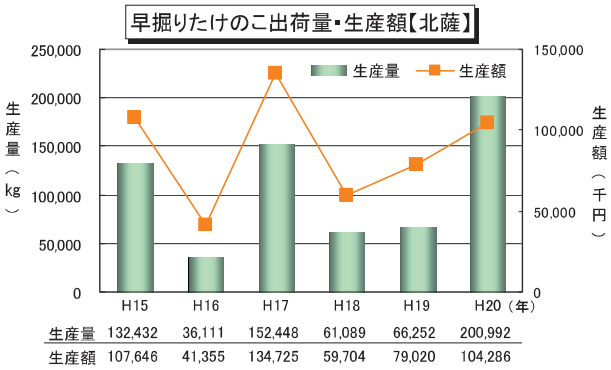
■　現在取り組んでいる「ちくりんオーナー制度[※38]」の拡大・オーナー組織の形成を図るとともに，オーナーの中からプロの生産者を育成して生産量の増大を図ります。

■　竹林のグリーン・ツーリズム等への利用を視野に，民間や生産振興会，地区コミュニティ組織等による観光たけのこ園の整備や景観整備を行い，竹林の有効活用を図ります。

■　生産者にとって労働負荷の大きい伐竹・搬出作業やたけのこ掘り取り作業について，生産者に代わり林業事業体や建設業者等が行う「施業受委託体制」の整備を推進します。

■　竹材利用について，これまでの竹パルプや竹炭などに加え，粗飼料や堆肥，バイオマス燃料など新たな利用法を促進するとともに，安定供給体制の整備を推進します。

優良なたけのこ専用林



資料：県林務水産部

35 グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然・文化，農林漁業体験や人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

36 不在村化：所有する森林とは別の市町村に居住する個人等が増加する傾向にあること。

37 丸太のストックヤード：丸太を一時的に保管する場所。

38 ちくりんオーナー制度：放置竹林対策として平成16年度から農協が主体となり，竹林の維持・再生，都市と農村との交流，新たな生産者の育成を目的に，竹林を一般の方に貸し出す制度。

３　水産業の振興

将来のイメージ

■　漁業については，一層の販路拡大が図られるとともに，持続的・安定的な生産体制が構築されています。

■　養殖業については，国内外での一層の販路拡大が図られるとともに，養殖漁場の持続的な利用が確保され，安定的な生産体制が構築されています。

■　水産業を支える担い手が確保がされています。

阿久根漁港の水揚風景

長島町の養殖ブリ
（全国でも有数な生産地）

長島町の養殖アオサ
（県内でも有数な生産地）

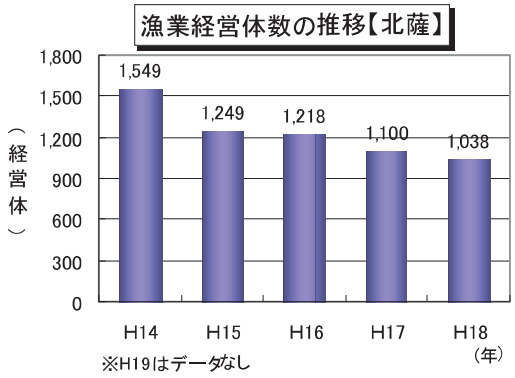
現状と課題

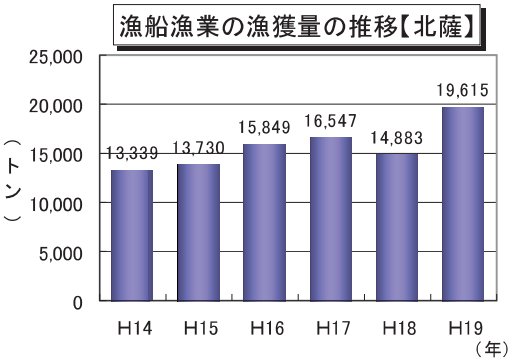
■　水産資源の減少，魚価の低迷，漁業経営の不振など厳しい環境の中，持続可能な強い漁業経営を目指し，安定的な生産体制の確立と販路拡大を図る必要が

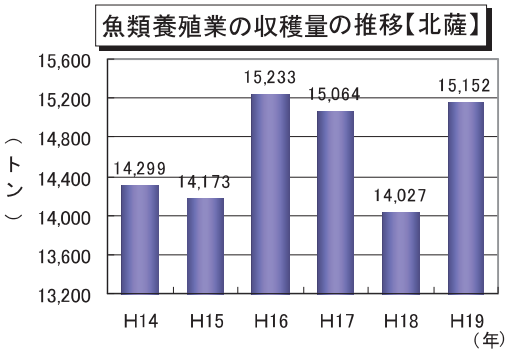
あります。

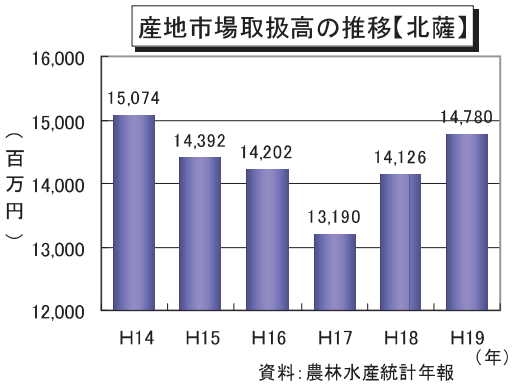
■　魚類養殖業においては飼料等コストの増大，魚価の低迷など厳しい環境の中，持続可能な強い漁業経営を目指し，養殖漁場の持続的な利用と安定的な生産や販路拡大を図る必要があります。また，県内有数の藻類養殖業[※39]についても，安定的な生産と新養殖種[※40]の導入を図る必要があります。

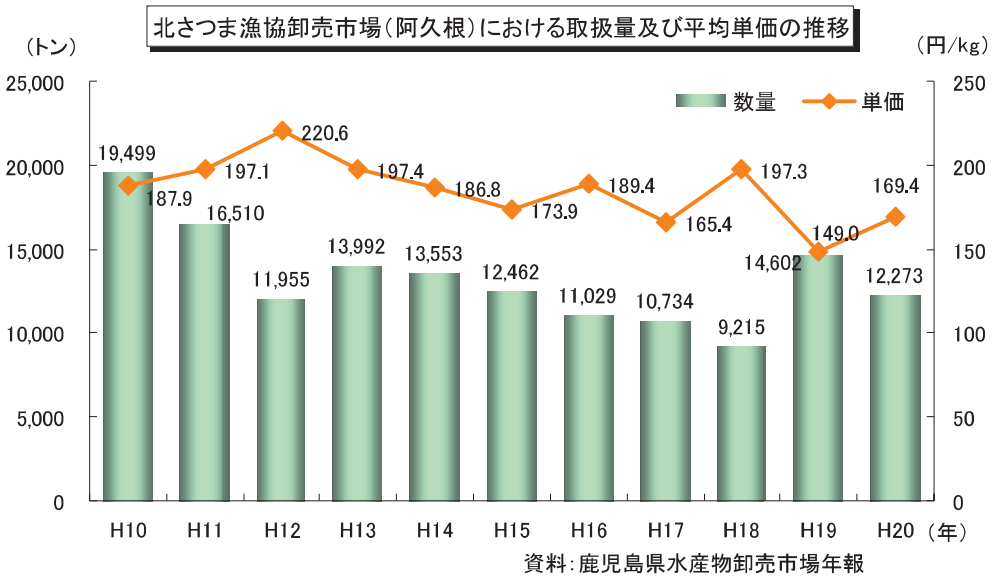
■　漁業就業者の減少・高齢化が進んでいる中，これからの水産業を支える担い手を確保する必要があります。



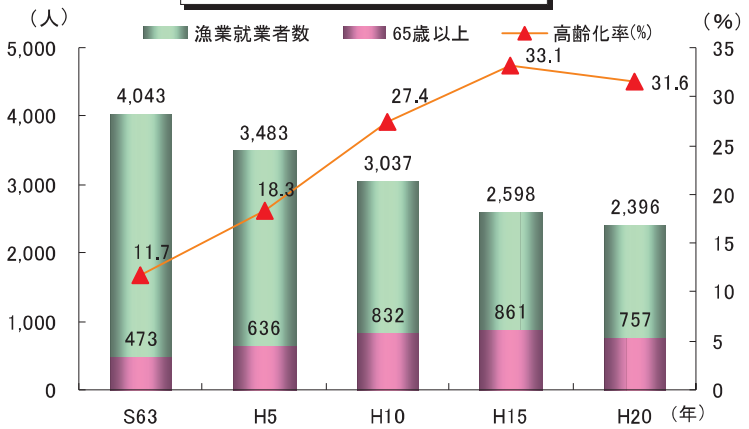








漁業就業者の推移と高齢化【北薩】



資料：農林水産省「漁業センサス」

取組の方向性

（１）漁業の振興

■　生産基盤の整備として，魚礁等による漁場づくりや藻場・干潟などの環境整備，森による海の環境保全[※41]を図るとともに，放流事業など栽培漁業を推進します。

■　流通改善として，一元集出荷体制の整備や直販体制の検討・体制づくり，離島水産物流通の改善を推進します。

■　加工業の振興のため，塩干物の消費拡大や低・未利用魚の加工品づくり，加工施設や保管・販売体制の整備を推進します。

■　担い手の確保のため，若い漁業者や地域のリーダーである漁業士，経営改善促進グループを育成します。

■　漁港・漁村の整備と水産業・漁村の多面的機能[※42]の発揮を推進します。

漁　港　の　状　況【北薩】

	所在市町	区分	箇所数	名　称						
漁港	薩摩川内市	第１種	2	唐浜	寄田					
（29）		（甑島）	6	里	小島（オジマ）	青瀬	瀬々野浦	片野浦	芦浜	
		第２種（甑島）	2	平良	藺牟田					
		第４種（甑島）	2	中甑	手打					
	阿久根市	第１種	3	佐潟	脇本	牛之浜				
		第３種	1	阿久根						
	出水市	第１種	2	桂島	野口					
		第２種	1	名護						
	長島町	第１種	6	三船	伊唐北	観音	大島（オシマ）	汐見	蔵之元	
		第２種	3	弊串	葛輪	茅屋（ボヤ）				
		第３種	1	薄井						

※ 第2種・3種・4種は，県管理漁港，第1種は，市町村管理漁港
第1種 － 利用範囲が地元の漁船を主とするもの。　第2種 － 利用範囲が第1種より広く、第3種に属しないもの。
第3種 － 利用範囲が全国的なもの。 第4種 － 離島その他辺地にあって漁場の開発又は避難上特に必要なもの。

資料：北薩地域振興局建設部（平成21年3月現在）

（２）養殖業の振興

■　魚類養殖業では，養殖コスト削減対策(飼料高騰対策)や価格安定対策，消費拡大，輸出の促進を図るとともに，有害赤潮の発生メカニズムの解明や防除技術の開発など赤潮対策を推進します。

■　藻類養殖業では，ノリ・ヒトエグサ[※43]養殖業の振興(アサクサノリのブランド化など)や新養殖種の導入（ヒジキ，トサカノリなど）を推進します。

---

39 藻類養殖業：ヒトエグサ（アオサ），海苔（クロノリ），ワカメなどの海藻の養殖。

40 新養殖種：ヒジキやトサカノリなど新たな種類の海藻についても，本格的な養殖が期待されている。

41 森による海の環境保全：海は陸の森林から大きな恩恵を受けていると同時に，森林の環境悪化は海にも大きな影響を与える。例えば，森林の土壌に含まれる栄養分が，川を通じて海の生き物にもたらされていたり，雨水が少しずつ川に供給されることで，山崩れや川の氾濫を押さえ，濁った水の海への流入を防いでいることなど。

42 水産業・漁村の多面的機能：水産業・漁村は，安全で新鮮な食材を安定的に供給する機能以外に，海難救助や国境監視等の生命・財産の保全，海域環境の保全，生態系の保全，交流の場の提供，地域社会の維持・形成など多面にわたる機能を有している。

43 ヒトエグサ：通称アオサと呼ばれている海藻です。吸い物や佃煮などで食される。

４　商工業の振興

将来のイメージ

■　各種施策により企業の進出・規模拡大等が進み，雇用の増大が図られています。

■　企業の経営革新や技術者などの人材が育成され，企業の活性化が進んでいます。

■　商店街リーダー・後継者の育成，イベントとの連携等により商店街が活性化し，地域住民の交流の場になっています。

現状と課題

■　景気低迷による企業の撤退等で，失業者が増加してきています。

■　企業の経営診断や情報化支援，研究開発等の各種助成事業の支援等に取り組んでいます。

■　商店街は，大規模小売店舗の郊外立地や少子高齢化・後継者不足等により空き店舗が目立つとともに，人の往来も少なくなってきています。

■　百縁市や一店逸品市等のイベントの開催により集客を図っています。

取組の方向性

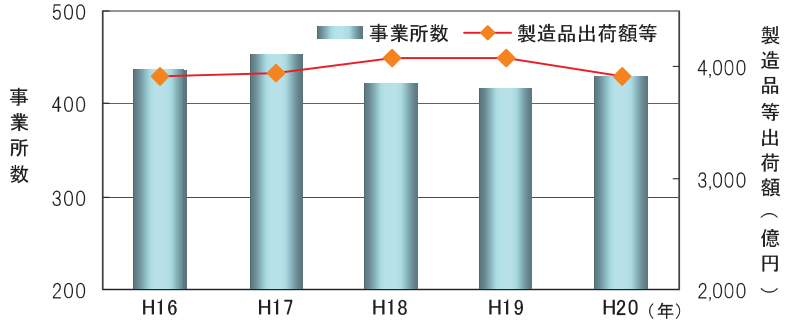
■　企業誘致のための諸施策を実施し，また川内港を国際貿易港として機能充実を図るとともに，先端技術型産業と関連する分野の振興等を進めます。

■　企業の経営革新セミナー等研修会の開催や産学官連携による技術者の育成等により企業の育成強化を図ります。

■　商店街の空き店舗を利用し，チャレンジショップ開店や後継者育成研修等を支援し，商店街の活性化を図ります。

■　商店街のリーダー育成研修等の支援を図るとともに，商工団体，NPO法人，地域住民等が連携しイベントの開催等により集客を図り，魅力ある商店街を目指します。

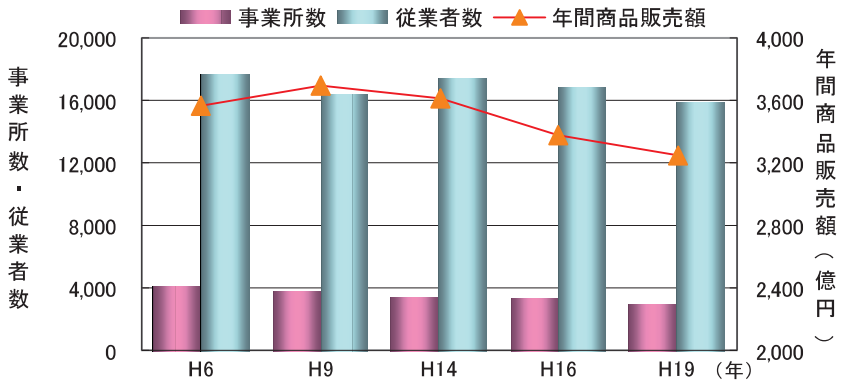
製造業の事業所数等の推移【北薩】



	H16	H17	H18	H19	H20
事業所数	436	453	423	417	429
製造品出荷額等	3,910	3,950	4,085	4,082	3,907

資料：工業統計

卸売業・小売業の事業所数等の推移【北薩】



	H6	H9	H14	H16	H19
事業所数	4,060	3,738	3,406	3,313	2,990
従業者数	17,600	16,400	17,404	16,838	15,918
年間商品販売額	3,568	3,698	3,606	3,372	3,248

資料：商業統計